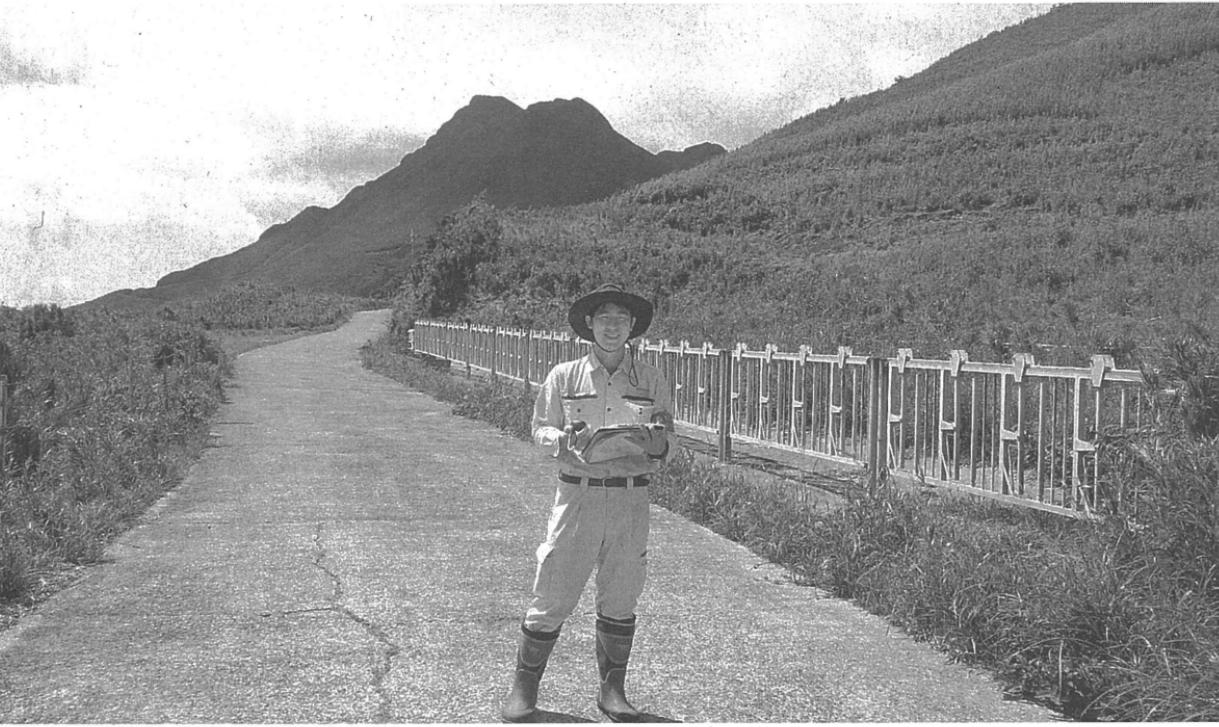


kagoshima local network

みなみネット@鹿児島都市圏



十島村口之島に通い、外来種テンの研究を続ける日本大学大学院の中園和憲さん

中園さんは都城出身の父親の実家が農家で、農業人口減や食糧問題に関心があり、日本大学に進学。卒業研究で奄美のマンゲース

を取り上げるなど、外來種への関心が高かった。

野生動物のシンボジウムの懇親会で昨年末、口之島のテンが研究途上と知り、興味を持った。

3年間務めた東京の造園施工管理会社を辞め、今春から大学院で学ぶ。村には

日大大学院生・中園さん 4回来島

1900年代、ネズミ

(永井貴士)

の数から個体数が多いと感じており、在来種への影響が懸念される。分布や食べ物などをさらに研究を進めた

十島村口之島に生息する外來種のテン(26)。神奈川県相模原市。11月までの7カ月間で4回調査に訪れ、住民から“テンの兄ちゃん”と慕われる。「目撃した場所や時間帯を教えてくれる島民もあり、ありがたい」と感謝している。



十島村口之島で外來種のテンを研究する若者がいる。日本大学大学院生物資源科学研究科1年の中園和憲さん(26)。神奈川県相模原市。11月までの7カ月間で4回調査に訪れ、住民から“テンの兄ちゃん”と慕われる。「目撲した場所や時間帯を教えてくれる島民もあり、ありがたい」と感謝している。

口之島で外來種研究中

“テン兄ちゃん、島民に感謝

十島村口之島に生息する外來種のテン(26)。神奈川県相模原市。11月までの7カ月間で4回調査に訪れ、住民から“テンの兄ちゃん”と慕われる。「目撲した場所や時間帯を教えてくれる島民もあり、ありがたい」と感謝している。

(中園和憲さん提供)

駆除のためイタチを持ち込んだ記録があるが、テンの侵入経緯は分かっていないという。

5月に初めて口之島入り。4回の調査でそれぞれ約6日間滞在した。島内を徒步で1日9時間ほど巡り、ふんを探集。衛星利用測位システム(GPS)で位置を記録した。動物などの温度変化を感知する赤外線自動撮影装置を13カ所に設置し、生態を観察する。

来年6月まで調査を続け、学会で論文を発表する予定。「夜行性のテンが日中も頻繁に目撲されている。ふんの数から個体数が多いと感じており、在来種への影響が懸念される。分布や食べ物などをさらに研究を進めた」と話した。